病院長に聞く

病院長　平野（ひらの） 典和（のりかず）

新年のご挨拶

　みなさま、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。本来ならば新年を寿ぐ言葉を綴るべきところではありますが、昨年と同様に新型コロナ感染症や病院の現況に触れざるを得ません。この挨拶は昨年の 11 月下旬に認（したた）めております。世間はワールドカップの開催で熱気が高まっており、テレビなどでも世界中からカタールに押し寄せたファンが興奮した面持ちでマスコミのマイクに答えています。当然のように誰もマスクをしていない姿に不安を覚えるのは私だけでしょうか。国内でも夏ごろから各地の大規模イベントもほぼ解禁状態で、厚生労働省の V-RESAS というサイトを見ると各地のイベントや旅行需要は完全にコロナ前に戻っていることが分かります。いっぽう、感染者数は増加の一途を辿り、すでに第８波であるとの観測もあります。富山県の病床使用率も 40%に近付いており、レベル３（まん延防止）も危惧されます。当院でも一度は中止した感染者専用病棟を復活せざるを得なくなり、その後は今日まで入院患者が絶えることがありません。さらに最近の入院患者さんは昨年までとは異なり高齢者が中心となってきています。治療よりも介護に手を要する方が多くなり、これが現場を苦しめています。あのただでさえ息苦しい完全防御装備で患者さんの介護や治療にあたる職員にはただ感謝の念しかありません。加えて感染や濃厚接触のため出勤制限となる職員も少なくなく、一般診療に支障をきたす日も出てきました。労災病院では長らく断わらない救急を標榜してきましたが、これも 10 月には数日ながら病気の内容によっては断らざるを得ない日が生じました。また、地域の医療機関や施設などとの交流の場や各種の勉強会もほとんど開催することが出来なくなっております。地域医療の基幹を自負する労災病院の院長としてまさに断腸の思いと言わざるを得ません。さらに昨今の燃料費や電気代あるいは諸費の高騰はもともと良好とはいえない財務状況を著しく圧迫してきています。まさしく今年は四面楚歌の中で迎える新年となりました。もちろん景気対策や地域の活性化は行政の最重要課題であり一定の感染は容認する方向は理解できますが、病院の負担は積もるばかりです。本年は感染の状況や行政の意向を見定めつつ今後の労災病院の方向を探る困難な年になることが予想されます。

　まことに新年にふさわしくない挨拶となりましたが、職員一同がもう一度気持ちを引き締めて業務に努めてまいりたいと存じます。魚津市の市民の皆様には一層の当院へのご支持やご支援をお願い申し上げます。

発　行：独立行政法人労働者健康安全機構　富山ろうさい病院　地域医療連携室
富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページ（URL https://www.toyamah.johas.go.jp/dayori/）
にも掲載しています。
【お問い合わせ先】TEL(0765)-22-1280（病院代表）
E-mail chiiki2@toyamah.johas.go.jp

☜バックナンバーはこちらの
QRコードからも確認できます。